

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターげんき		
○保護者評価実施期間	令和8年2月4日		令和8年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和8年2月4日		令和8年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご家族の子育てをサポートするため、親子療育の実施。 単独療育においても、週1回親子療育日を設定。	保護者勉強会、ペアレントプログラム、ペアレントトレーニング、CAREプログラムの実施。 親子の愛着関係の形成・安定化のための保護者支援。	医療機関や母子保健事業実施機関等との連携強化。
2	対人関係、社会性、コミュニケーション力を養うため、小集団療育を充実させている。	絵・文字カードやモデリング等の視覚支援。 ミュージック・ケア等での発語・身体表現活動。 対人遊び、ソーシャルスキル・トレーニング等による対人関係や社会性の涵養。 療育全体を通しての言語、コミュニケーション力の向上	職員のスキルアップ(研修)
3	プレールームが充実している。	遊具を組み合わせたサーキット活動等を通しての基本的動作・協調運動動作の習得、姿勢保持・体幹機能・バランス感覚・ボディイメージ等の向上。 視覚・聴覚・触覚・前庭覚・固有受容覚等の統合促進、感覚調整の円滑化。	職員のスキルアップ(研修)
4	児童発達支援センターとしての中核機能の発揮	長崎市地域障害児支援体制強化事業費補助金の交付を受け、市内事業所等職員を対象に中央講師を招聘しての研修会4回を開催。また、他事業所職員のスキルアップ研修、こども園等のクラス支援、療育体験受け入れ等の地域支援事業を実施。	地域支援事業の情報発信の徹底。 地域全体のスキルアップ、連携強化の呼びかけ等。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	医療的ケアが必要な児童の受け入れができない	医療的ケアができる職員がいない 医療的ケアができる施設設備がない	現時点では受け入れは困難。
2	身体に障害を持つ児の受け入れが困難	多目的トイレやエレベーターは設置しているが、身体に障害を持つ児が、1日を通じて小集団生活を送るには、療育室等が狭隘である。またスタッフも足りていない。	現時点では受け入れは困難。
3	利用児の地域交流の機会をつくるのが難しい	地域の方との交流についてはもちつき会、他園の園児との交流はこども園での園庭遊び、園児とのミュージックケア、こども園園庭への遠足を行っているが、児の実態から相互交流は難しく、また、療育時間の関係から頻繁には実施できない。	交流事業は意義のある事業であり、機会拡大について検討したい。